

令和 8 年度知財支援リレー人材育成プログラム

ー選ばれる地域支援機関になるためにー

プログラム内容のご案内

自分たちに知的財産は関係ないのでは・・・？

自分の支援先に、
知的財産は関係なさそう・・・



支援先からも知的財産の
話題が出たことはないなあ・・・



支援先も、“知財”という観点に気付いていないのかもしれない

本プログラムのねらい



支援機関の皆様が、多様な課題を発掘し、その解決策を提案をできるようになることで、地域の中小企業等からさらに**選ばれる存在**になるのを後押し



そのために皆様の支援機能を強化すべく、**「知的財産」の捉え方や提案方法等に関するトレーニングプログラム**を提供

※知的財産の専門知識を身につけることを目的とするプログラムではありません

※あくまでも、支援機関の皆様が取引先・支援先企業と対話等をする中で、「知的財産が関係する内容ではないか？」ということに気がつける感覚を身につけることに主眼を置いています

地域支援機関にとっての“プラス・ワン”

地域支援機関を取り巻くキーワード

事業性評価

企業価値担保権

対話

小規模企業振興基本計画

地域支援機関の皆様の想い

選ばれる支援機関としての
信頼と存在感を

支援機能を強化

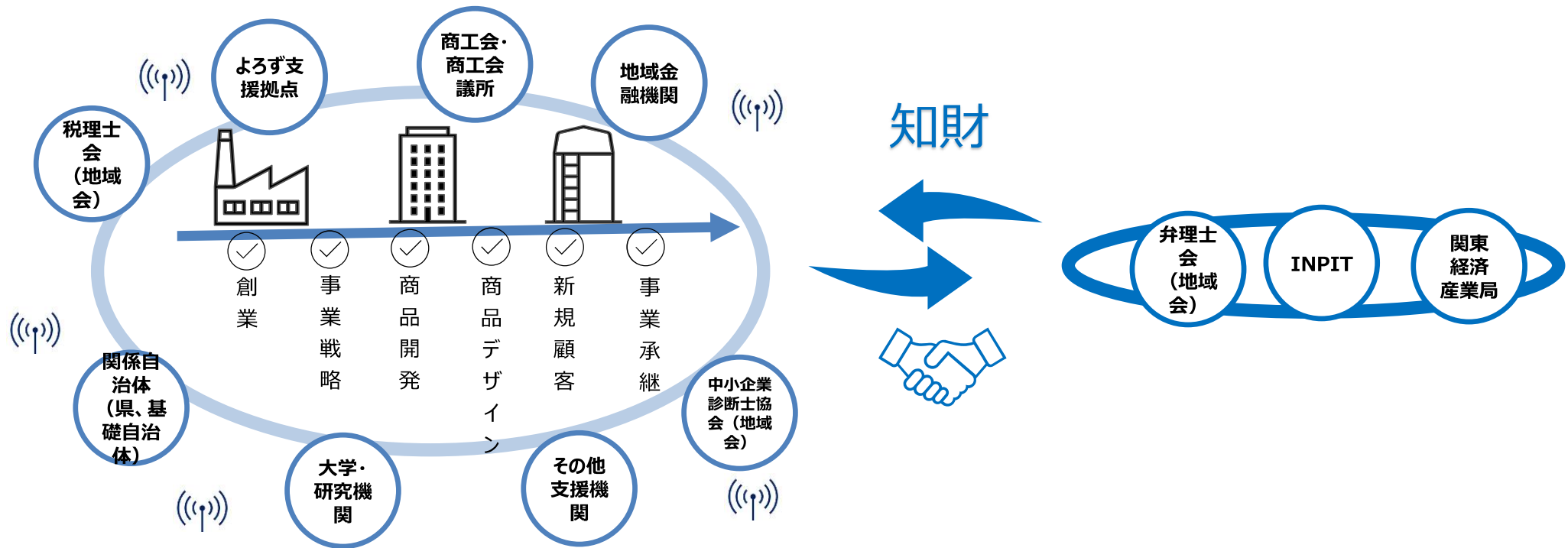
地域企業のために



これを進めるための“プラス・ワン”として、知財のアンテナを身につける

知財支援リレー人材とは？

取引先・支援先との対話や支援の現場で、企業の潜在的な知財課題に気づくことができる人材



プログラムの概要

①セミナーと②ワークショップを2日間で実施

1日目

セミナー

知財視点を**知る**



2日目

ワークショップ

知財視点を**増やす**

※いずれも3時間程度

(実施時間や実施日時については、応募時または採択時に調整可能)

1日目（セミナー）の概要

以下の内容を基本構成としつつ、詳細な内容は各支援機関と調整してアレンジすることが可能

講演

知的財産の基礎知識

中小企業の事業課題と 知的財産の関係

- 導入として、「知的財産とは何か？」「どのような種類の知的財産があるのか？」「例えば身近な知的財産としてどのようなものがあるか？」等を解説
- 支援機関職員が普段接している企業の課題（創業、事業承継、販路開拓、新製品開発等）と知的財産がどのように関係しているのかを解説

演習

簡易ワークショップ°

- 支援機関職員が普段接している企業の課題に注目した仮想事例を提供
- その仮想事例を読み、知的財産が関係しそうな部分を見つけるワークを実施

※ハイレベルな知的財産の論点は含めませんので、知的財産の知識が薄くても十分に取り組める内容になっています。

2日目（ワークショップ）

支援機関職員として見るべき知財視点を“多様なパターンで習得”する

事前

事前課題の提出

- 2日目に先立って、参加者は事前課題を提出
- 支援先の概要を整理する程度の内容であり、決して難しいものではありません（過年度も、すべての支援機関が問題なく取り組めています）

当日

1. 仮想事例に基づくワークショップ

- 支援機関の皆様にとって“よくある事例”を題材として、知財視点で気になる部分を見つけるワークショップを実施

2. 事前課題の内容に対する助言

- 事前課題で取り組んだ内容をもとに協議を実施
- 知財専門家から、「この企業であれば、知財的にはここが気になる」等の助言を提供

2 日目（ワークショップ） 仮想事例のイメージ

検討事項

- お客様に対して何を聞くか？／どのような提案が想定されるか？
- 知財の話が関係しそうな気がするところはあるか？

（２）仮想事例

- 男性（60代）の経営者（甲州食肉販売株式会社）より、「**自社商品をもっと県外にも広げていきたいのだが、何をどのように考えて進めていけばよいのかわからなくなってしまった。**」との相談があった。

<現状>

- 相談者は地域の人を主顧客として、豚肉を中心とした加工・販売を営んでいる。従業員数は10名。後継者は未定。
- 当社独自の「**秘伝の味噌だれ**」の味が高い評判を得ている。（経営者の知恵が詰まっているもの）
- 近年、人口減等の影響もあってか、売上が減少し続けており、**県外も含めて販路を拡大し事業を成長させるための策**が必要であるとの想いが強くなってきた。

<今後について考えていること>

- 豚の味噌漬けを中心に、今後**ECもやっていきたい**と思っている。
- EC展開を見据えて、味を損なわない**冷凍技術**の初期案を考えた。また、様々なニーズにあうと思われる**味付けの配合**等も研究している。（設備等は準備できていない）
- 「**味噌キッチン**」という名前を冠にして、「ビールに合う」「一人暮らし用」「あっさり」「女性向け」等の**バリエーション展開**も考えたい。
- 「ビールに合う」「あっさり」は、最近戻ってきた**経営者の子どものアイデア**であり、先日まで**働いていた飲食店での経験を活かしたレシピ**で実現をできそうである。
- 一人暮らし向けには、**小分けの包装容器**にしてちょっとずつ使えるようにしていこうと思う。イメージの絵は既に考えている。
- **地域としての特性や山梨らしさ**もPRしていきたい。味噌だれの評判がよいので、味噌だれを活かして何か拡大したいとも思っている。
- パンフレットも作らなきゃいけない、パッケージも目に付くようなものにした方が良く、展示会に出て当社の良いところをたくさんPRする、など様々やらなきゃいけないことは思いつくのだが、どれからやったらよいのか、そして実施するにあたってどのように考えればよいのかわからなくなっており、一度相談させてもらいたい。



応募について

公募期間

令和8年7月10日（金）～令和8年8月7日（金） 17時

応募主体

関東経済産業局管内¹に所在地を有する地域支援機関²
単独での応募又は幹事機関³による応募が可能

応募方法

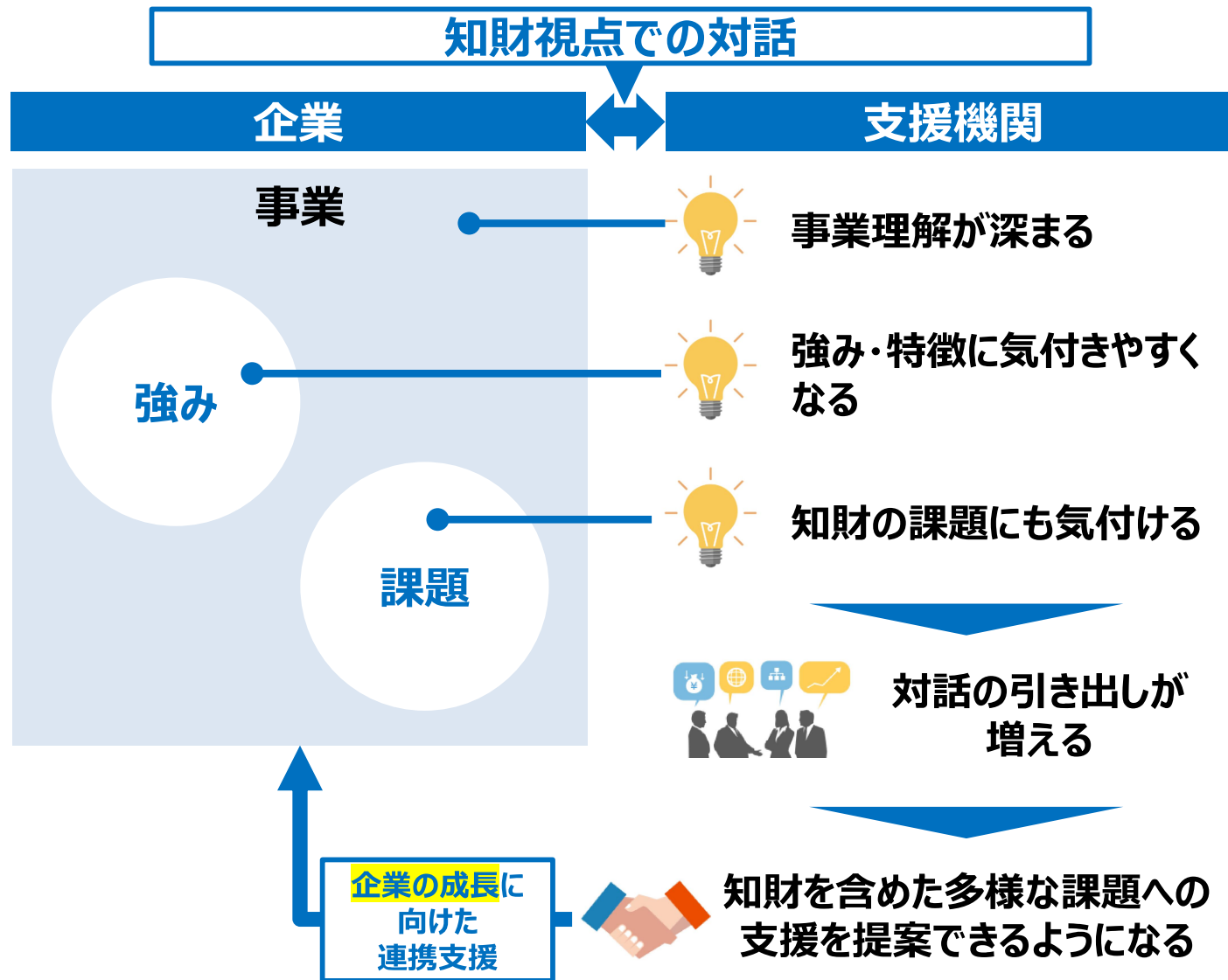
関東経済産業局WEBサイトに掲載する要領と申込用紙を確認したうえで、以下の提出先へ申込用紙を提出

提出先

関東経済産業局
bzl-kanto-chizai@meti.go.jp
知財支援リレー人材育成事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
ip-relay@murc.jp
※メール件名に「知財支援リレー人材育成プログラム応募」と記載

- 1 関東経済産業局管内とは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県をいう
- 2 地域支援機関とは金融機関、商工会・商工会議所、自治体、中小企業支援センター、公財・公社、一財・一社、独立行政法人、中小機構、JETRO、産総研、大学・TLO・その他民間の土業、コンサルタント等又は上記地域支援機関を構成員とする一般社団法人、一般財団法人、その他団体組織（連合会等）等を想定する
- 3 複数の支援機関をまとめた幹事機関が代表となって申請し、プログラムには複数の支援機関が参加するもの（例：特定の商工会議所が幹事となり複数の商工会議所が参加する、関連団体（信用金庫協会等）が幹事となり複数の機関（信用金庫等）が参加する）

最後に：地域支援機関の皆様にとってのメリット（実施者の声）



最後に：地域支援機関の皆様にとってのメリット（実施者の声）

